



「エシカル消費」を学ぶ

1月に図書館にて「SDGs・エシカル展示」を行いました。「エシカル消費」とは、環境、人や社会、地域にやさしい商品やサービスを選ぶ、思いやりのある買い物のしかたのことです。地域にやさしい商品を選ぶとは、例えば地産地消や地元商店での買い物といったことがあげられます。

生徒は家庭基礎、福祉、地歴などの時間を使って学習し、「ゴミを出さないように物を大切にしていきたい」「賞味期限と消費期限について理解できた」「エコバッグを持って買い物をしていきたい」「フードバンクに協力したい」などたくさんの意見があげられました。今後の自分たちの生活に直結することが多いため、今回学んだことを忘れずに、日々生活をしてほしいと思います。



社会人講話 オンライン開催！

1年次生「産業社会と人間」では、鳥取県内で活躍されている4名の方に、仕事の内容や働く意義について、また、高校時代に大切にすべきことなどについて、2回にわたりオンラインで話していただきました。生徒にとって、来年度の「総合的な探究の時間」での職業理解や進路選択に向けて、充実した学習活動となりました。ありがとうございました。



林業アカデミー奮闘記

今年も日南の山で学ぶ

3期生13人が、大きなけがもなく全員が卒業しました。コロナの関係で視察が難しい中、町内の林業事業者の皆様のご協力で良い研修ができました。お世話になった皆様に心より御礼申し上げます。卒業生は、町内4人、県内4人、県外5人（広島3、岡山2）に就職します。人口減少が続く日南町で、これまでの卒業生13人が町内に暮らしています。また、鳥取県の新規林業就業者の約15%が林業アカデミー卒業生で、県の林業の担い手としても大きな役割を果たしています。

一般的には、山村地域も林業も斜陽感がまだまだ強いですが、山村だからできること、林業の町だからできることを、コツコツと積み重ねることで、小さくても元気な町にすることができると思います。林業アカデミーの森林教育の取り組みもその一つで、今年も保育園から中学3年生まで全学年合わせ約25日間実施しました。特に「森林と動物」をテーマに、小学2年生と保育園児が一緒になって学んだ森林教育は、公教育

【林業アカデミーHPアドレス】 <https://nichinan-ipc.or.jp/forestry/>

問 になん中国山地林業アカデミー TEL 8410070



としても大変貴重な取り組みでした。本年も林業アカデミーに4期生12人が入学します。人材育成と森林教育に積極的に取り組み、「山の学び」を通じて若い山の理解者を増やしたいと思っています。本年度も町民の皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、林業アカデミー非常勤講師でもある伊藤勝久（島根大名誉教授）編著の『農山村のオルタナティブ』（日本林業調査会）で、日南町の林業アカデミーと森林教育の取り組みを紹介しています。

